

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	毎床 玲音（大阪大学）				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	社会学の歴史は、近代社会の成立と共にある。本講義では、その近代の上に成り立つ現代において、社会学の諸概念や諸理論を概説的に取り上げ、複合的な社会に生きるわれわれの日常生活をみつめていく。それはまさに、自分の眼を自分の眼で見つめ直す行為である。つまり本講義は、受講生の省察を目的としている。				
教 科 書	武川 正吾, 佐藤 健二, 常松 淳, 武岡 暢, 米澤 旦 著 2025『社会学概論：何をどのように考えてきたのか』有斐閣アルマ. <u>（*購入する必要はありません）</u>				
参 考 書	井上 俊, 船津 衛 編 2005『自己と他者の社会学』有斐閣アルマ.				
	宇都宮 京子, 西澤 晃彦 編著 2020『よくわかる社会学〔第三版〕』ミネルヴァ書房.				
	大澤 真幸 2019『社会学史』講談社現代新書.				
	ケイン 樹里安, 上原 健太郎 編著 2019『ふれる社会学』北樹出版.				
	櫻井 義秀, 平藤 喜久子 編著 2015『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房.				
	田中 正人 編著, 香月 孝史 著 2019『社会学用語図鑑』プレジデント社.				
	長谷川 公一, 浜 日出夫, 藤村 正之, 町村 敬志 2026『社会学（第3版）』有斐閣.				
	早川 洋行 編著 2011『よくわかる社会学史』ミネルヴァ書房.				
	間淵 領吾, 酒井 千絵, 古川 誠 編 2022『基礎社会学〔新訂第五版〕』世界思想社. ほか				

具体的な到達目標	
目標1	社会学で取り扱われる諸概念や諸理論を理解することができる。
目標2	社会学の諸要素を日常生活において認識し、それらを自らの仕事や研究等に活かすことができる。
目標3	講義で学んだ社会学を、自分の実生活や身近な現象等の場面で分析・判断し、説明したり応用したりすることができる。

評価と試験						
前 期				後 期		
試験成績	70			－		
平常点	30	算出方法	対面授業時の感想文など	－	算出方法	－
出席点	－	算出方法	－	－	算出方法	－
その他	－	算出方法	－	－	算出方法	－
試験日	後日伝達					

※ 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☐ 無 ☒
教員の实務経験	特記事項なし
実務経験をいかした教育内容	特記事項なし

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	【対面】4/18	オリエンテーション：「社会学」へようこそ	
2	〔動画〕4/25	個人と社会 自己と他者	
3	〔動画〕5/2	家族と親密圏 仕事と産業	
4	〔動画〕5/9	福祉と貧困 犯罪と逸脱	
5	【対面】5/16	病と医療	
6	〔動画〕5/23	グローバル化と開発 社会階層と不平等	
7	〔動画〕5/30	都市・地域 権力と自由	
8	〔動画〕6/6	メディアと文化 宗教・政治・報道／ネット……「信仰」「三位一体」の時代	
9	〔動画〕6/13	方法としての社会学 社会学の歴史と理論の振り返り	
10	【対面】6/20	ジェンダー	
11	〔動画〕6/27	子どもと若者 教育と多文化共生	
12	〔動画〕7/4	現代社会Ⅰ：哲学	
13	〔動画〕7/11	現代社会Ⅱ：文学	
14	【対面】7/18	「区別」という差別	
15	【対面】8/29	期末試験の返却 雑談会と後期の予告	
その他の事項			

■受講に際しての諸注意と配慮事項

講義実施日時と講義内容は、シラバスに記載の予定から変更される場合がある。また、本講義では、社会学という学問の性質上、内容によっては、受講生にとってストレスとなり得るような、センシティブなテーマや事象等が取り上げられることが予想される（受講生は無理をしないように、自分を優先してください）。

また、視覚（色覚を含む）や聴覚等においてなんらかの配慮が必要な場合は、講義担当者ないし学校関係者に事前に申し出れば、その申請に応じて講義を構成・展開する。

■成績評価にかんして

期末の筆記試験は、ノート持ち込み可の論述問題を出題する予定である。

出席の扱いにかんしては、学則ならびに細則の規定に拠る。

■講義担当者にかんして

●researchmap

https://researchmap.jp/Camus_Grenier/

●連絡先

メールアドレス（＊メールアドレスの★は@に置き換えてください）

u476463b★ecs.osaka-u.ac.jp

＊オフィスアワーは対面授業時の休み時間もしくは昼休み（@職員室）

基礎分野

(生物学)シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2026 年度シラバス

授業概要				
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期
単 位 数	2	必要時間数	30	実施時間数
担当教員	益田 敦子			
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム	
授業目的	生物学とは、生物がどのようなしくみで生命活動を営んでいるかを探求する学問であるが、本講義では、主に生物の体がどのような物質でできているか、また生物の基本単位である細胞の各細胞小器官の構造と働き、増殖の方法を学ぶ。さらに原核生物、真核生物、ウイルスの違いについて学ぶことにより生物の基礎知識を身につける。これらの基礎知識は医療系学生が主に生理学、解剖学を学ぶ際の理解の助けとなることが期待される。			
教 科 書	教科書は指定しない			

具体的な到達目標	
目標 1	生物の特徴について説明できる。
目標 2	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）それぞれの構造や性質について説明できる。
目標 3	生体を構成する物質（水、タンパク質、糖質、脂質）、それぞれの生体内における働きを説明できる。
目標 4	細胞膜の構造について説明できる。
目標 5	細胞膜における物質輸送について説明できる。
目標 6	細胞小器官について、それぞれの形態の特徴と機能を説明できる。
目標 7	原核生物と真核生物の違いを説明できる。
目標 8	細菌の構造について説明できる。
目標 9	ウイルスの構造と特徴について説明できる。
目標 10	細胞の増殖の仕方（体細胞分裂、減数分裂）について説明できる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	85%			
平常点	15%	算出方法	授業態度により判定	算出方法
出席点		算出方法		算出方法
その他		算出方法		算出方法
試験日				

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☐	無 ☐
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、生物の特徴、トピック	
2		生体を構成する物質全体について、水の性質と生体内における働き、タンパク質の構造	
3		タンパク質の構造と性質 タンパク質の種類と生体内における働き	
4		糖質（単糖類、二糖類、多糖類）の構造と性質、糖質の生体内における働き、	
5		脂質（単純脂質、複合脂質）の構造と性質、脂質（誘導脂質）の構造と性質	
6		脂質（誘導脂質）の構造と性質、脂質の生体内における働き、無機質の生体内における働き	
7		細胞の発見と細胞説、細胞の大きさと形	
8		細胞膜の構造と性質、細胞膜における物質輸送の方法	
9		核、リボソーム、粗面小胞体、滑面小胞体、ゴルジ装置の構造と働き、細胞内における物質の流れ	
10		リソソーム、ミトコンドリア、中心体、液胞、葉緑体、細胞壁の構造と働き	
11		細胞骨格の構造と働き、生物のタイプ：原核生物と真核生物、細菌の構造、ラン藻の構造	
12		細胞の進化、ウイルスの構造、特徴、分類とさまざまなウイルスについて	
13		細胞周期、体細胞分裂、染色体、減数分裂、生殖細胞の形成	
14		復習	
15		試験解説、トピック	
その他の事項			
・生物学は専門科目ではないが、生理学、解剖学の理解の助けになるので、しっかり勉強して下さい。 ・パワーポイントを印刷したものを、配信前または配信後ほどなく配布するので、学習、復習に利用して下さい。 ・対面授業では、復習や質問に対する対応も行なう。			
推薦図書	絵でわかる細胞の世界	黒谷明美著	講談社サイエンティフィク 2001 年発行
	医学を学ぶための生物学	谷口直之、米田悦啓編集	南江堂 2004 年改訂第 2 版発行

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	岩本 奈己				
授業形態	講 義	教 室	基礎医学実習室、ホームルーム		
授業目的	医学の基礎となる解剖学のうち、「骨、関節、筋といった運動器」を学び、実技授業や臨床でも活用できるよう、その知識を修得する。				
教 科 書	東洋療法学校協会編 解剖生理 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	骨について説明することができる（特徴、構造など）
目標 2	関節について説明することができる（特徴、構造、働きなど）
目標 3	筋について説明することができる（特徴、構造、起始停止、作用、支配神経など）

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	8 0 %		8 0 %		
平常点	2 0 %	算出方法 課題	2 0 %	算出方法 課題	
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバス説明、第 1 章 C. 組織と器官(支持組織、筋組織)、 第 2 章 A. 運動器系とは(1. 運動の仕組み、2. 解剖学的用語)	第 1～2 章
2		A. 運動器系とは(3. 骨の構造と機能、4. 関節の構造と機能)	第 2 章
3		A. 運動器系とは(5. 骨格筋の構造と機能((3) 筋線維と筋原線維は除く)	
4		A. 運動器系とは(7. 骨格筋の分類と補助装置(1) 赤筋と白筋は除く) B. 全身の骨格(関節可動域)	
5		A. 運動器系とは まとめ、問題演習など	

6	B. 全身の骨格(脊柱、胸郭)
7	B. 全身の骨格(上肢の骨格)
8	B. 全身の骨格(下肢の骨格)
9	B. 全身の骨格(頭蓋骨)
10	B. 全身の骨格(脊柱～上肢のまとめ、問題演習など)
11	B. 全身の骨格(下肢～頭蓋骨のまとめ、問題演習など)
12	C. 全身の骨格筋(体幹部の筋) ①
13	C. 全身の骨格筋(体幹部の筋) ②
14	C. 全身の骨格筋(体幹部の筋)のまとめ、問題演習など
	試験
15	試験フィードバック、前期のまとめ
16	C. 全身の骨格筋(上肢の筋) ①
17	C. 全身の骨格筋(上肢の筋) ②
18	C. 全身の骨格筋(下肢の筋) ①
19	C. 全身の骨格筋(下肢の筋) ②
20	C. 全身の骨格筋(上肢～下肢)のまとめ、問題演習など
21	C. 全身の骨格筋(頭頸部の筋)
22	C. 全身の骨格筋(頭頸部の筋)のまとめ、問題演習など
23	C. 全身の骨格筋のまとめ
24	B. 体表解剖と主要な部位(体幹の体表解剖)
25	B. 体表解剖と主要な部位(上肢の局所解剖)
26	B. 体表解剖と主要な部位(下肢の局所解剖)
27	B. 体表解剖と主要な部位(頭頸部の体表解剖と局所解剖)
28	第12章のまとめ、問題演習など (体幹、上肢)
29	第12章のまとめ、問題演習など (下肢、頭頸部)
	試験
30	試験フィードバック、後期のまとめ

第12章

その他の事項

<担当者メールアドレス>

n. iwamoto@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	奥村 清和				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	基礎医学である生理学を学習し習得することにより、他の科目や臨床への応用が期待できる。				
	所定の教科書を利用して、その章の基準に従って授業を進めていきます。生徒のみなさんに教科書を読んでもらって、それに対して、説明・解釈を加えていきます。また、必要に応じて、自作のスライドを見てもらいながらの説明もあります。				
教 科 書	解剖生理 医歯薬出版				

具体的な到達目標	
目標 1	人体各部の機能を習得する。
目標 2	習得した系統をつなぎ合わせて、理解を深める。
目標 3	他の科目や臨床に応用できるようにする。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	100%		100%		
平常点	なし	算出方法	なし	算出方法	
出席点	なし	算出方法	なし	算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		細胞の概要、遺伝子とゲノム	
2		細胞分裂、遺伝子発現	
3		体液と恒常性、体液の性質	
4		物質の移動	
5		第6章 血液と免疫（血液）、血液とその成分	
6		白血球、血小板と止血機構	
7		血液凝固、血液型	
8		第5章 循環系、心臓	
9		心臓の活動と検査	
10		血圧と脈拍	
11		血圧と脈拍、リンパ系	
12		第7章 呼吸器系、呼吸と換気、呼吸とその調節	
13		呼吸機能の測定	
14		酸素・二酸化炭素の運搬	
15		呼吸の調節	
16		第8章 消化器系と代謝・栄養（消化器系）、嚥下、胃液と胃運動	
17		小腸の運動、小腸における消化と吸収	
18		大腸の運動と分泌、排便、膵臓の外分泌機能	
19		肝臓の機能、食欲	
20		第10章 内分泌系と体温（体温）、概要	
21		体熱の産生と放散①	
22		体熱の産生と放散②	
23		温度受容器と体温調節中枢、体温調節機能	
24		第9章 泌尿器系、腎臓の機能	
25		尿の生成、糸球体におけるろ過	
26		尿細管における再吸収と分泌	
27		腎機能の測定	
28		尿の組成、体液pHの調整	
29		蓄尿、排尿反射	
30		予備	
その他の事項			

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	下宮 啓佑				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	本授業においては、医学の基礎となる解剖学のうち、「循環器系・呼吸器系・消化器系・泌尿器系」を重点的に学ぶ。 本授業では、国家試験に対応できる力を育成することのみならず、他科目と確実に連携できることを目的として実施し、頭の中で人体の各臓器の構造が3次元で構成できることを最終的な目標とする。				
教 科 書	東洋療法学校協会 解剖生理 第1版				

具体的な到達目標	
目標1	細胞、組織の構造について理解し説明することができる。
目標2	心臓の構造を理解し説明することができる。
目標3	全身の血管系の流れを理解し説明することができる。
目標4	血管の構造を理解し説明することができる。
目標5	リンパ系の役割・各種リンパ系器官の構造を理解し説明することができる。
目標6	呼吸器の流れ、各呼吸器系器官の構造を理解し説明することができる。
目標7	各消化器官の構造や流れについて理解し説明することができる。
目標8	各泌尿器官の構造や流れについて理解し説明することができる。

評価と試験				
前 期			後 期	
試験成績	100%		100%	
平常点	—	算出方法 —	算出方法	—
出席点	—	算出方法 —	算出方法	—
その他	—	算出方法 —	算出方法	—
試験日	後日伝達		後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第1章 人体の構成：細胞、組織と器官Ⅰ	
2		第1章 人体の構成：細胞、組織と器官Ⅱ、第5章循環系：循環の概要と血管の構造	
3		第5章循環系：血管の構造と吻合、門脈の概要	
4		第5章循環系：心臓の構造(位置・心膜・壁)Ⅰ	
5		第5章循環系：心臓の構造(房室・弁・刺激伝導系)Ⅱ	
6		第5章循環系：心臓の構造(心臓血管)Ⅲ	
7		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(大動脈・胸大動脈)Ⅰ	
8		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(腹大動脈Ⅱ	
9		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(総腸骨動脈)Ⅲ	
10		第5章循環系：動脈循環と大動脈の流れと分枝(上肢・頸部・顔面部)Ⅳ	
11		第5章循環系：静脈と胎児循環	
12		第5章循環系：リンパ系(総論)	
13		第5章循環系：リンパ系(リンパ節・脾臓・胸腺・扁桃)。	
14		第5章の総復習。	
		定期試験	
15		第7章呼吸器系：鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭	
16		第7章呼吸器系：気管系・肺	
17		第8章消化器系と代謝・栄養：消化管の壁構成	
18		第8章消化器系と代謝・栄養：口蓋・軟口蓋・舌	
19		第8章消化器系と代謝・栄養：歯・唾液腺・咽頭	
20		第8章消化器系と代謝・栄養：食道・胃	
21		第8章消化器系と代謝・栄養：小腸	
22		第8章消化器系と代謝・栄養：大腸	
23		第8章消化器系と代謝・栄養：肝臓・胆嚢	
24		第8章消化器系と代謝・栄養：膵臓の・腹膜	
25		第8章消化器系と代謝・栄養：消化器の位置・構造等	
26		第9章泌尿器系：腎臓Ⅰ	
27		第9章泌尿器系：腎臓Ⅱ、尿路(尿管)Ⅰ	
28		第9章泌尿器系：尿路(膀胱・尿道)について学ぶⅡ	
29		第7章・8章・9章の総復習	
		定期試験	
30		まとめ	

その他の事項

担当教員メールアドレス：shimomiya@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	井口 智弘				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「生理学」は、臨床医学・医療の全般の基礎、そして論理的な思考を与えてくれる学問です。また、ここ半世紀にわたり分子生理学は目覚ましい発展をとげ、益々生命科学分野において「生理学」は重要な科目となります。あはき施術者においても、近年の統合医療の観点から、他の医療従事者と連携を取る際の疾病の理解には必要不可欠な知識です。 本授業では、代謝・内分泌・生殖・神経の各分野について、健康成人の生理学的な人体の仕組みを学習し、加えて補足的に病態生理の知識も学習し、病理学・臨床医学科目へのつながりを意識した授業をおこなう。				
教 科 書	東洋療法学校協会, 内田 さ, et al. 解剖生理: 医歯薬出版: 2022. (参考図書) 1. 東洋療法学校協会, 内田 さ, et al. 生理学. 第3版 ed: 医歯薬出版: 2014. 2. 本間 研, et al. 標準生理学. 第8版 ed: 医学書院: 2014.				

具体的な到達目標	
目標 1	第 8 章：ATP を合成する過程について説明することができる。
目標 2	第 8 章：ビタミン・ミネラルの役割について説明することができる。
目標 3	第 10 章：ホルモンの種類と、その働きを説明することができる。
目標 4	第 10 章：ホルモンの分泌器官・標的組織・分泌調整の流れを説明することができる。
目標 5	第 11 章：月経周期とホルモンの関係を説明することができる。
目標 6	第 11 章：受精から分娩後のホルモンによる身体変化について説明することができる。
目標 7	第 3 章：神経の興奮伝導、シナプス伝達の生理学的特性について説明することができる。
目標 8	第 3 章：大脳辺縁系・大脳基底核・新皮質のそれぞれの働きを説明することができる。
目標 9	第 3 章：間脳・脳幹・小脳のそれぞれの働きを説明することができる。
目標 10	第 3 章：末梢神経系(脳・自律神経)の各機能を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	期末試験 100%	期末試験 100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験				
実務経験	有	☒	無	☐

教員の実務経験	はり師・きゅう師の免許を有する。訪問鍼灸院・鍼灸整骨院・デイサービスにて２年間の実務経験あり。大学院鍼灸センターにて２年間、往診専門で５年間の実務経験あり。本校附属治療所で３年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	代謝・栄養疾患、内分泌疾患、婦人科疾患、神経疾患など広い範囲へ繋がる内容となります。 臨床時に想定される患者像と授業内容を、可能な限り関連付けながら進めていきます。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第 8 章 B. 代謝と栄養-1. 代謝とは	P. 226
2		第 8 章 B. 代謝と栄養-2. 糖質	P. 226～227
3		第 8 章 B. 代謝と栄養-3. 脂質、	P. 228～229
4		第 8 章 B. 代謝と栄養-4. タンパク質	P. 230～231
5		第 8 章 B. 代謝と栄養-5. ビタミン、 6. ミネラル 第 8 章「まとめ」	
6		第 10 章 A. 内分泌系の総論	P. 244～247
7		第 10 章 B. 内分泌系の各論-1. 視床下部と下垂体	P. 247～249
8		第 10 章 B. 内分泌系の各論-2. 甲状腺と副甲状腺、 3. ランゲルハンス島(膵島)	P. 250～253
9		第 10 章 B. 内分泌系の各論-4. 副腎	P. 253～255
10		第 10 章 B. 内分泌系の各論-4. 副腎、 5. その他のホルモン	P. 255～256
11		第 10 章 B. 内分泌系の各論-6. ホルモンによる体液の調整、 第 10 章「まとめ」	P. 256
12		第 11 章 A. 生殖とは	P. 262～269
13		第 11 章 B. 妊娠と発生	P. 269～273
14		第 11 章 C. 生体のリズムと加齢変化	P. 273～276
15		第 11 章 「まとめ」	
16		第 3 章 A. 神経系と神経組織-3. 神経細胞の興奮と伝導	P. 82～84
17		第 3 章 A. 神経系と神経組織-4. シナプス伝達	P. 84～87
18		第 3 章 B. 中枢神経系-2. 中枢神経系の統合機能	P. 87～89
19		第 3 章 B. 中枢神経系-3. 大脳 (3)大脳辺縁系、 (4)大脳基底核	P. 89、92/P. 90～
20		第 3 章 B. 中枢神経系-3. 大脳 (2)新皮質、	P. 90～92
21		第 3 章 B. 中枢神経系-4. 間脳	P. 93、95～96
22		第 3 章 B. 中枢神経系-5. 脳幹	P. 94～95
23		第 3 章 B. 中枢神経系-6. 小脳	P. 96～100
24		第 3 章 B. 中枢神経系-7. 脳波と睡眠、 8. 脊髄	
25		第 3 章 A, B「まとめ」	P. 100～103
26		第 3 章 C. 伝導路と運動調節-4. 運動反射	P. 103～104
27		第 3 章 D. 末梢神経系-1. 脳神経	P. 106～112
28		第 3 章 D. 末梢神経系-1. 脳神経 3. 自律神経系	P. 121～
29		第 3 章 D. 末梢神経系-3. 自律神経系	P. 121～
30		第 3 章 C, D「まとめ」	

その他の事項

授業の概要 毎時間教科書及び配布資料を用いた講義

受講するうえでの決まり事

スマートフォンや携帯電話について：講義中の録音・撮影は不可。携帯電話等はマナーモードに設定のこと。

配布資料：配布資料は、教科書と同様、毎時間持参すること。紛失した場合の追加での印刷は行わない。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合がある。

担当教員からのメッセージ

専門用語に慣れることが、内容理解への第一歩です。焦らずに確認・復習を行なっていきましょう。

勉強するための環境や仕組み作りも大切です。ご自身に合ったものを今から構築していきましょう。

質問などがある場合、アンケートまたは、メールアドレスに送ってください。

アドレス：t-iguchi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	後 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	上田 恵介				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	現代の施術者に求められる倫理は、かつての特権的・権威的なものから、「患者の権利を尊重する倫理」へと大きく変化している。本授業の目的は、このパラダイムシフトを理解し、実務において以下の責任を果たせる施術者を育成することにある。				
教 科 書	中川米造監修 医療概論 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標 1	医療に関わる憲章や宣言の概要について説明することができる。
目標 2	パターンリズムと患者中心医療の違いについて説明することができる。
目標 3	我が国の医療従事者数とその特徴について説明することができる。
目標 4	我が国の社会保険制度について説明することができる。
目標 5	ノーマライゼーションについて説明することができる。
目標 6	終末期医療や脳死などの生命倫理について説明することができる。
目標 7	守秘義務と個人情報保護法について説明することができる。
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☐	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明・医療とは何か	グループワーク
2		現代医学の課題（西欧近代医学・東洋医学）	
3		現代の医療制度 1（医療と社会）疾病構造/医療法と医療制度/リハビリテーション	
4		現代の医療制度 2（医療従事者）チーム医療と専門職連携	
5		現代の医療制度 3（医療経済）国民医療費	
6		社会保障制度 1（医療保険の仕組み）療養費	
7		社会保障制度 2（公的医療負担）	
8		前半 問題演習・解説	
9		社会保障制度 3（介護サービス行政）	
10		医療倫理 1（医療の倫理）	
11		医療倫理 2（医療倫理教育）	
12		医療倫理 3（施術者としての倫理 1）	
13		医療倫理 3（施術者としての倫理 2）	
14		後期 問題演習/振り返り	
15		試験解説・まとめ	

その他の事項

連絡先 : ueda@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	高橋 佑輔				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	経絡経穴概論は、瘧は気学を学ぶうえで重要な柱の 1 つである。経穴は、身体各部の状態が體表情に反映される蕪位であり、同時に、刺激をすることで身体各部に影響を与えることができる、診断・施術において重要なポイントである。本講義では経絡の種類、作用、流れ、経穴の名称、部位、意義を学び、臨床において経穴を応用できる基礎知識を身につける。				
教 科 書	「新版 経絡経穴概論 第 2 版」（医道の日本社）				

具体的な到達目標	
目標 1	督脈・任脈の流注、部位を覚える。
目標 2	手の太陰肺経～足の厥陰肝経までの経絡の流注、部位を覚える。
目標 3	取穴する上で必要な骨度法を覚える。
目標 4	五行穴、五要穴を覚える。
目標 5	奇経八脈・奇穴を覚える。
目標 6	経絡経穴の現代的研究を覚える。
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	80%		80%		
平常点	20%	算出方法	小テスト①～⑧	20%	算出方法
出席点		算出方法			算出方法
その他		算出方法			算出方法
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有	☒	無 ☐
教員の実務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバスの説明、経絡経穴の概要①	
2		経絡経穴の概要②、骨度法	
3		督脈の流注・経穴名・部位について①	
4		督脈の流注・経穴名・部位について②	
5		任脈の流注・経穴名・部位について①	小テスト①
6		任脈の流注・経穴名・部位について②	
7		手の太陰肺経の流注・経穴名・部位について	小テスト②
8		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について①	小テスト③
9		手の陽明大腸経の流注・経穴名・部位について②	
10		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について①	小テスト④
11		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について②	
12		足の陽明胃経の流注・経穴名・部位について③	
13		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑤
14		足の太陰脾経の流注・経穴名・部位について②	
15		手の少陰心経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑥
16		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑦
17		手の太陽小腸経の流注・経穴名・部位について②	
18		督脈～手の太陽小腸経の復習	小テスト⑧
19		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について①	
		前期試験	
20		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について②	
21		足の太陽膀胱経の流注・経穴名・部位について③	
22		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑨
23		足の少陰腎経の流注・経穴名・部位について②	
24		手の厥陰心包経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑩
25		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑪
26		手の少陽三焦経の流注・経穴名・部位について②	
27		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について①	小テスト⑫
28		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について②	
29		足の少陽胆経の流注・経穴名・部位について③	
30		足の厥陰肝経の流注・経穴名・部位について	小テスト⑬
31		足の太陽膀胱経～足の厥陰肝経の復習	小テスト⑭
32		五行穴・五要穴について	
33		その他の要穴について	

34		胸腹部、腰背部の横並びについて
35		奇経八脈について、奇穴について①
36		奇穴について②
37		四肢の筋と経穴の関係
38		体幹の筋と経穴の関係
39		総復習
		後期試験
40		経絡経穴の現代的研究について

その他の事項

小テストは適宜、授業内で実施する。

担当教員(メールアドレス)

takahashi@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	4	必要時間数	8 0	実施時間数	8 0
担当教員	佐藤陽子				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	はり・きゅう・あん摩・指圧は東洋医学を基礎として今日まで発展してきた治療法である。臨床の場において必ず必要となる東洋医学の基礎知識を学習し、学習した範囲の国家試験問題が解答できることを目的とする。				
教 科 書	新版『東洋医学概論』（東洋療法学校協会編）医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標 1	陰陽の相互関係を説明できる。
目標 2	五行色体表を記載することができる。
目標 3	生体物質や臓腑の生理を説明できる。
目標 4	生体物質や臓腑の病理を説明できる。
目標 5	八綱弁証を用い、人体の状況を判別することができる。
目標 6	病因の特徴を説明することができる。
目標 7	経脈病証の特徴を説明することができる
目標 8	診察法を四診に分類することができる。
目標 9	脈診と病証を関連づけることができる。
目標 10	自然界での出来事と身体や病気を関係づけて考えることができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験			
実務経験をいかした教育内容			

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		ガイダンス、第 1 章：東洋医学の特徴（東洋医学の沿革、人体の見方）	

2	第1章：東洋医学の特徴（人体の見方、東洋医学的治療）
3	第3章：東洋医学の思想（陰陽学説）
4	第3章：東洋医学の思想（陰陽学説、五行学説）
5	第3章：東洋医学の思想（五行学説）
6	第3章：東洋医学の思想（まとめ）
7	第2章：生理と病理（生理物質 精の生理と病理）
8	第2章：生理と病理（生理物質 精の病理、気の生理）
9	第2章：生理と病理（生理物質 気の生理と病理）
10	第2章：生理と病理（生理物質 血の生理と病理、津液の生理と病理）
11	第2章：生理と病理（生理物質 神、陰陽の生理と病理）
12	第2章：生理と病理（生理物質 陰陽の生理と病理）
13	第2章：生理と病理（生理物質 まとめ）
14	第2章：生理と病理（臓腑学説、肝系統 肝の生理と病理）
15	第2章：生理と病理（臓腑学説、肝系統 肝の病理、胆の生理と病理）
16	第2章：生理と病理（心系統 心の生理と病理）
17	第2章：生理と病理（心系統 心の病理、小腸の生理と病理）
18	第2章：生理と病理（脾系統 脾の生理と病理）
19	第2章：生理と病理（脾系統 脾の病理、胃の生理と病理）
20	第2章：生理と病理（肺系統 肺の生理と病理）
21	第2章：生理と病理（肺系統 肺の病理、大腸の生理と病理）
22	第2章：生理と病理（腎系統 腎の生理と病理）
23	第2章：生理と病理（腎系統 腎の病理、膀胱の生理と病理）
24	第2章：生理と病理（三焦）
25	第2章：生理と病理（蔵象 まとめ）
26	第2章：生理と病理（経絡 十二経脈病証）
27	第2章：生理と病理（十二経脈病証）
28	第2章：生理と病理（奇経八脈病証、まとめ）
29	第2章：生理と病理（病因 外感病因、内傷病因）
30	第2章：生理と病理（病因 内傷病因、病理産物その他の病因）
31	第2章：生理と病理（病因 病理産物その他の病因、病機、まとめ）
32	第5章：弁証論治（八綱弁証）
33	第5章：弁証論治（八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証、まとめ）
34	第4章：四診（切診）
35	第4章：四診（切診）
36	第4章：四診（望診）

37		第 4 章：四診（望診、聞診）
38		第 4 章：四診（聞診、問診）
39		第 4 章：四診（問診）
40		まとめ

その他の事項

<連絡先>

y. hatakeda@butsugen. or. jp

専 門 分 野（ はりきゅう理論Ⅰ ）シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2026 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	20 時間	実施時間数	20 時間
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	鍼灸施術において、利用する鍼と灸に関する道具の名称や術式など、基礎的な知識を理解することは、施術を円滑に進めるためには必要な知識である。そのため、本授業では鍼灸の基礎知識を学習する。 また、はり師きゅう師が患者の受療の可否の判断をすること、鍼灸施術を行うにあたって意図的に鍼灸刺激の調節ができる必要がある。本授業では、安全に施術を行えるように、鍼灸治療の適応や禁忌などのリスク管理について学習する。				
教 科 書	医道の日本社 第3版 はりきゅう理論(p1～46)				

具体的な到達目標	
目標 1	鍼の基礎知識として（各部の名称・長さ・太さ・鍼尖の形状）を説明することができる。
目標 2	古代九鍼の種類と使用方法について説明することができる。
目標 3	刺鍼の方式〔撚鍼法・打鍼法・管鍼法〕と刺鍼の術式〔押手・刺手・切皮など〕を説明することができる。
目標 4	刺鍼中の手技について説明することができる。
目標 5	特殊鍼法の種類と特徴について説明することができる。
目標 6	灸の基礎知識（灸の材料・線香について）を説明することができる。
目標 7	灸術の種類とその特徴を説明することができる。
目標 8	鍼灸施術の刺激量や感受性について説明することができる。
目標 9	鍼灸施術の適応症、禁忌について説明することができる。
目標 10	リスク管理（施術上の一般的注意、鍼灸療法の過誤と副作用、感染症対策）について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の実務経験	あん摩マッサージ 指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリリ病院にて3年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で6年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	鍼灸施術を安全に行うために必要な基礎知識を教授する。		

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバス説明 第1章 概論	
2		第2章 鍼の基礎知識	
3		第3章 刺鍼の方式と術式	
4		問題演習(第1～3章)	
5		第4章 特殊鍼法	
6		第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類	
7		第7章 リスク管理 1.安全対策の基本 2.感染対策	
8		第7章 リスク管理 3.有害事象の種類と対処法	
9		問題演習(第4～7章) 肝炎について	
10		テスト返却、解説、まとめ	

その他の事項
・教科書 p48 以降は3年生科目「はりきゅう理論Ⅱ」にて学習します。 ・担当者メールアドレス usui@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	20	実施時間数	20
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	「あん摩」「マッサージ」「指圧」の基本手技やその相違点を学ぶことにより、各種実技を行う上で、より具体的なイメージを持てるようになることを目的とする。 また、併せて「あん摩」「マッサージ」「指圧」の治療理論を知ることにより、より効果的な施術を行えるようになることを目的とする。				
教 科 書	あん摩マッサージ指圧理論 第3版 医道の日本社 (※p1～40)				

具体的な到達目標	
目標1	あん摩・マッサージ・指圧の違いを説明することができる。
目標2	あん摩の基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標3	マッサージの基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標4	指圧の基本手技について、その方法・作用を説明することができる。
目標5	あん摩・マッサージ・指圧が生体に及ぼす作用について説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	算出方法		算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で6年間の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	あん摩マッサージ指圧の各種基本手技について教授する。		

授業の内容		
回数	内容	備考
1	シラバス、科目概要の説明、あん摩マッサージ指圧の相違点について	
2	あん摩・マッサージ・指圧の意義と沿革、あん摩の基本手技とその作用	第1章
3	マッサージの基本手技とその作用、指圧の基本手技とその作用	
4	問題演習 第1章	
5	あま指の各組織・器官におよぼす作用（生体作用の機転の一般、循環器系・神経系）	第2章
6	あま指の各組織・器官におよぼす作用（皮膚・筋・関節・消化器・呼吸器・全身）	
7	運動法の生体に及ぼす作用	
8	あん摩マッサージ指圧の治療効果	
9	問題演習 第2章	
10	テスト返却・解説、まとめ	

その他の事項
・教科書 p41 以降は3年生科目「あま指理論Ⅱ」にて学習します。 ・担当者メールアドレス usui@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	第 1 鍼灸科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90	実施時間数	90
担当教員	下宮啓佑・棟居清峰				
授業形態	実 習	教 室	実技室		
授業目的	本授業は、基本的な刺鍼の手順、安全な鍼操作を理解、習得することが目的である。また、鍼灸臨床におけるステンレス鍼と銀鍼の使用方法を学び習得することで基礎を構築する				
教 科 書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第 2 版、医道の日本社、1992 年				

具体的な到達目標	
目標 1	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）が正確にできること
目標 2	安全に刺鍼することができるように一連の手順を正確にできること
目標 3	刺鍼に関わる動作（揉捻法・押手・切皮・刺入・抜鍼）が適切に行えること
目標 4	指定された角度・深度に刺鍼することができること
目標 5	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髮・爪）を整えることが出来る

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	55%（試験合格を以って 55%を加算する）		55%（試験合格を以って 55%を加算する）		
平常点	35%	算出方法	「その他の事項」に記載	35%	算出方法 「その他の事項」に記載
出席点	10%	算出方法	「その他の事項」に記載	10%	算出方法 「その他の事項」に記載
その他		算出方法			算出方法
試験日					

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔下宮〕はり師・きゅう師の免許を有する。整形外科、鍼灸整骨院にて 4 年間の経験あり。他校附属治療院にて 6 年間の実務経験あり。本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。 〔棟居〕はり師・きゅう師の免許を有する。鍼灸院にて 9 年間の実務経験あり。教員養成科附属治療院にて 2 年間、往診専門で 2 年間、本校附属治療所で 1 6 年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に刺鍼するための基礎実技を行う。

授業の内容		
回数	内容	備考
1	オリエンテーション [シラバスの確認・実技室の使い方・道具の確認・道具の準備・手洗いについて]	
2	両手挿管、片手挿管の方法、刺鍼練習台を用いて片手挿管の練習	
3	刺鍼の手順 [揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼]	
4	反復練習 (刺鍼の手順 [揉捻法・押手・刺手・切皮・弾入・抜鍼])	

5	直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について
6	反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法、刺入深度について）
7	直刺での刺鍼、旋撚刺法
8	反復練習（直刺での刺鍼、旋撚刺法）
9	直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法
10	反復練習（直刺での刺鍼、送り込み刺法・旋撚刺法）、十七手技〔置鍼術、副刺激術、示指打法〕
11	人体への刺鍼手順、消毒手順、十七手技〔刺鍼転向法〕
12	自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕、消毒手順確認、十七手技〔単刺・雀啄術・間歇術〕
13	自身の体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔前回授業内容〕、十七手技〔菅散術・屋漏術〕
14	自身の体への刺鍼〔下腿〕、斜刺での刺鍼、十七手技〔振せん術・旋撚術〕
15	自身の体への刺鍼〔下腿〕、直刺・斜刺での刺鍼、十七手技〔回旋術・随鍼術〕
16	片手挿管、刺鍼の手順、消毒手順の確認〕、十七手技〔内調術・細指術〕
17	自身の身体への刺鍼〔下腿〕、反復練習〔直刺・斜刺〕、十七手技〔鍼尖転移法〕
18	他者の体への刺鍼〔下腿〕、消毒手順確認、指サック・グローブの取り扱いについて、医療事故・医療過誤について①
19	他者の体への刺鍼〔上肢〕、タオルの取り扱い方、医療事故・医療過誤について②
20	他者の体への刺鍼〔下腿〕、医療事故・医療過誤について③
21	他者の体への刺鍼〔腰背部〕
22	試験
23	試験
24	試験（予備日）
25	試験結果を踏まえての基礎実技
26	鍼寸3の取り扱いについて、他者の体への刺鍼〔腰部〕
27	他者の体への刺鍼〔上・中背部〕
28	他者の体への刺鍼〔上肢・下肢〕
29	他者の体への刺鍼〔上肢・下肢〕
30	他者の体への刺鍼〔腹部〕
31	他者の体への刺鍼〔頸部〕
32	ステンレス鍼の取り扱いについて、他者の体への刺鍼〔頸部〕
33	他者の体への刺鍼〔背部〕
34	他者の体への刺鍼〔腰背部〕
35	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
36	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
37	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
38	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼

39	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
40	他者の体への刺鍼、仰臥位と伏臥位の刺鍼
41	鍼と灸を合わせての施術
42	試験
43	試験
44	試験（予備日）
45	鍼と灸を合わせての施術

その他の事項

【共通】

- ＜試験成績＞ 55%（試験合格を以って 55%を加算する）
- ＜出席点＞ 10%（3/4 以上の出席を以て 10%を加算する）
- ＜平常点＞ 35%

【平常点内訳】

【授業内実技確認 20%】 授業内に実技内容を確認・評価し 20%に換算する。（授業内実技確認日は別途アナウンスします。）

【その他 15%】 以下の内容、1 回チェックにつき 1 点減点とする。

- 実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。
- 実技に必要な道具・備品（バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあつて以降）を忘れた場合。
- 身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。
- 授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

- ・鍼の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。 積極的な日々の自主練習があつて、初めて習得できる技術ですから毎日、練習の習慣を付け、先ずは 1 年間毎日練習をしてください。
- ・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

【学校全体の目標】

課題に対して誤差なく、決められた刺法で刺入できること。

【1 年生の目標】

1 年生では誤差±5 mm以内で刺入できること。

※但し、目的の深度が 1cm の場合は下限を 7mm とする。

（直刺）90° を目標として刺鍼する。

1 年生は誤差±15° 以内で刺入できること

（斜刺）基本45°を目標として刺鍼する。

1 年生は 45° に対して誤差±15° 以内で刺入できること。

斜刺は流注に沿つての角度を計測することとする。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	90 時間	実施時間数	90 時間
担当教員	高橋佑輔 岩本奈己				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室、第 1 実技室、第 3 実技室		
授業目的	臨床において、広く行われている灸法である知熱灸と透熱灸を、施術において用いることができるようにすることが本授業の目的である。知熱灸と透熱灸という灸法の手順を理解し、灸の基礎的な操作を学習する。				
教 科 書	教科書執筆小委員会、はりきゅう実技〈基礎編〉第 2 版、医道の日本社、1992 年				

具体的な到達目標	
目標 1	散艾から指定された大きさの艾炷を作成できる。
目標 2	安全な施灸の手順を正確に行える。
目標 3	作成した艾炷へ安全に着火できる。
目標 4	衛生操作（手指消毒・綿花の扱い・消毒）を正確にできる。
目標 5	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髮・爪）を整えられる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	55%		55%		
平常点	35%	算出方法 「その他」に記載	35%	算出方法 「その他」に記載	
出席点	10%	算出方法 「その他」に記載	10%	算出方法 「その他」に記載	
その他		算出方法		算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔高橋〕はり師・きゅう師の免許を有する。免許取得後、教員養成科時代に附属治療院にて 2 年間の実務経験あり。 本校附属治療所で 7 年間の実務経験あり。 〔岩本〕はり師・きゅう師の免許を有する。教員養成科附属治療院で 2 年の実務経験あり。本校附属治療所で 4 年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	鍼灸臨床に必要とされる衛生操作と、安全に施灸するための基礎実技を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション〔シラバスの確認・実技室の使い方・モグサの確認・道具の確認・身だしなみ〕	
2		お灸の概要、艾炷を捻る指の動きの練習	
3		米粒大艾炷の作成〔手拭い、ハンカチ〕	
4		反復練習	

5	米粒大艾柱の作成 [板]
6	線香の扱い方、艾柱への着火、米粒大艾柱の作成 [板]
7	反復練習
8	灸療リングの使い方、米粒大艾柱の作成 [紙]
9	米粒大艾柱の作成 [竹]
10	[板・紙・竹]を用いて施灸の反復練習
11	人体への施灸手順、知熱灸の方法 [板の上での練習]
12	自身の体へ知熱灸① [足部]
13	自身の体へ知熱灸② [足部]
14	自身の体へ知熱灸③ [下腿]
15	自身の体へ知熱灸④ [下腿]
16	ベッド操作、タオルの扱い、声掛け 他者の体へ知熱灸① [失眠・湧泉]
17	他者の体へ知熱灸② [下腿]
18	他者の体への施灸① [腰部]
19	他者の体への施灸② [腰部]
20	総復習
21	試験
22	試験
23	前期まとめ
24	半米粒大の艾柱作成 [手拭い・板・紙] 透熱灸の方法、熱緩和 [板の上での練習] ①
25	半米粒大の艾柱作成 [手拭い・板・紙] 透熱灸の方法、熱緩和 [板の上での練習] ②
26	自身の体へ透熱灸① [足部]
27	自身の体へ透熱灸② [足部]
28	他者の体へ透熱灸 [足部]
29	他者の体への施灸①
30	他者の体への施灸② [腹部]
31	他者の体への施灸③ [上肢]
32	他者の体への施灸④ [上肢]
33	他者の体への施灸⑤ [下肢]
34	他者の体への施灸⑥ [下肢]
35	他者の体への施灸⑦ [肩背部]
36	他者の体への施灸⑧ [肩背部]
37	確認①
38	確認②
39	灸と鍼の施術 [腰部]

40		確認③
41		確認④
42		試験
43		試験
44		試験予備日
45		後期まとめ

その他の事項

【共通】

- <試験成績> 55%（試験合格を以って 55%を加算する）
- <出席点> 10%（授業コマ数の 3/4 以上を以て 10%に加算する）
- <平常点> 35%

【平常点内訳】

[提出物 20%] 全提出の 3/4 以上提出を持って 20%に加算する。提出期限厳守。

[その他 15%] 以下の内容、1 回チェックにつき 1 点減点とする。

○実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○実技に必要な道具・備品（バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあつて以降）を忘れた場合。

○身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

○授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

- ・灸の基礎実技は授業時間だけで習得することは非常に困難です。積極的な日々の自主練習があつて、初めて習得できる技術なので毎日の練習の習慣を付け、まずは 1 年間毎日練習をしてください。
- ・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

【学校全体の目標】

人体に対し 3 分間で 12 壮、半米粒大の透熱灸（熱緩和を行う）ができること。

【1 年生の目標】

1 年生では 3 分間に米粒大 8 壮、半米粒大 10 壮

（例）失眠穴へ 3 分間（半米粒大）と透熱灸、熱緩和あり、左右交互 10 壮施灸できること。

1 年生は、紙への施灸は（200 壮／週）10,000 壮（通年）

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	佐藤陽子				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	「あん摩」はその適応の広さ、汎用性の高さから、あん摩マッサージ指圧等の施術の中でも臨床現場において用いられることが多い施術法である。各種疾病や身体状況に応じて、様々な手技・方法を用いるが、そのほとんどは基本手技（軽擦法、揉捏法、叩打法、圧迫法、運動法、曲手）の組み合わせから成り立っているため、基本手技を修得することを本授業の目的とする。肢位毎（坐位・側臥位・腹臥位・仰臥位）に各部位（肩背部・頸部・腰殿部・下肢部）への施術を3年間で習得するが、本授業では2年生からの臨床実習で活用する側臥位での反復練習を主に行い、あん摩施術の一連の流れの把握及び基本手技の修得を目指すものとする。				
教 科 書	教科書は指定しない 手拭い（初期購入品以外の物も可とする）と枕に引くハンカチ、シーツ（タオル）は毎回必ず持参すること				

具体的な到達目標	
目標1	あん摩施術の基本手技を実施することができる。
目標2	施術面に対してしっかりと密着した軽擦法を行うことができる。
目標3	手首を柔軟に用いた揉捏を行うことができる。
目標4	素早く軽やかな叩打法を行うことができる。
目標5	患者役の呼吸に合わせた圧迫法を行うことができる。
目標6	各関節のおおよその可動範囲を理解し、安全な範囲の中で運動法を行うことができる。
目標7	適切な姿勢・手の形で各種曲手を行うことができる。
目標8	安全面、衛生面を考慮した施術ができる。
目標9	治療家として、清潔感のある身だしなみ（実習着・靴・頭髮・爪）を整えられる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	70%		70%		
平常点	30%	算出方法	30%	算出方法	その他事項に記載
出席点		算出方法		算出方法	
その他		算出方法		算出方法	
試験日					

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で15年間の実務経験あり。

**実務経験を
いかした
教育内容**

東洋医学の現場や西洋医学の現場における多様な実務経験から、あん摩マッサージ指圧師の临床上必要な技術を教授することができる。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		シラバス説明及びあん摩施術の概要、手指各部の名称及び上手・下手等の用語の学習	
2		あん摩の基本手技の概要・目的・実施方法についての学習	
3		坐位における肩背部へのあん摩施術の練習	
4		前回内容（坐位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
5		側臥位における肩背部へのあん摩施術の練習	
6		前回内容（側臥位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
7		前回内容（側臥位における肩背部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
8		側臥位における頸部へのあん摩施術の練習	
9		前回内容（側臥位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
10		前回内容（側臥位における頸部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
11		側臥位における肩背部から頸部までのあん摩施術の練習	
12		側臥位における肩背部から頸部までのあん摩施術の練習	
13		側臥位における上肢部へのあん摩施術の練習	
14		前回内容（側臥位における上肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
15		前期実技試験、前期学習内容の復習	
16		前期実技試験、前期学習内容の復習	
17		側臥位における腰殿部へのあん摩施術の練習	
18		前回内容（側臥位における腰殿部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
19		前回内容（側臥位における腰殿部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
20		側臥位における下肢部へのあん摩施術の練習	
21		前回内容（側臥位における下肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
22		前回内容（側臥位における下肢部へのあん摩）をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
23		側臥位における腰殿部から下肢までのあん摩施術の練習	
24		側臥位における腰殿部から下肢までのあん摩施術の練習	
25		坐位における頸部・上肢部へのあん摩施術の練習	
26		前回内容をよりスムーズに行うための繰り返し練習	
27		側臥位におけるあん摩施術の通し練習	
28		側臥位におけるあん摩施術の通し練習	
29		後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
30		後期実技試験、これまでの学習内容の復習	
その他の事項			

【平常点内訳】

以下の内容、1 回チェックにつき 5 点減点とする。

○実習着・上履き：清潔であること、規定のものを着用すること。忘れた場合、授業見学は認めるが、実技への参加は不可とする。

○実技に必要な道具・備品（バスタオル、枕用タオル、シーツは持参のアナウンスがあつて以降）を忘れた場合。

○身だしなみ：別紙（実技実習に関する身だしなみルール）に準ずる。

○授業開始前までに連絡のない欠課、遅刻等。

・実技試験には、授業担当者以外の教員が入る可能性があります。

専 門 分 野 (マッサージ実技Ⅰ) シラバス

京都仏眼鍼灸理療専門学校
2026 年度シラバス

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	3 0
担当教員	松葉 実				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	マッサージ実技。マッサージの基本の施術を見せて、学生自身で練習を反復し、手技の習得をはかる。				
教 科 書	東洋療法学校協会編、あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉、医道の日本社、1 9 9 1 年				

具体的な到達目標	
目標 1	マッサージ師としての基本的な技術と知識の習得。
目標 2	施術を施して楽になることが理解できる。
目標 3	解剖学的な筋肉や骨の理解。
目標 4	東洋医学の一環としての手技であることの自覚。

評価と試験						
前 期			後 期			
試験成績						
平常点	6 0	算出方法		6 0	算出方法	
出席点	1 0	算出方法	欠席 2 点、遅刻・早退 1 点減点	1 0	算出方法	欠席 2 点、遅刻・早退 1 点減点
その他	3 0	算出方法		3 0	算出方法	
試験日	後日伝達		後日伝達			

＊再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 ☒ 無 ☐
教員の实務経験	3 9 年
実務経験をいかした教育内容	一年生ではマッサージの基本手技を身体各部全身に教科書を見ずに施術できるよう習得する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		三療の中のマッサージの位置付け	
2		基本手技	
3		運動法と矯正法	

4		手部
5		前腕
6		上腕
7		足部
8		下腿部
9		大腿部
10		復習
11		予備日
12		試験日
13		試験日
14		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋
15		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋
16		僧帽筋・広背筋・棘下筋・脊柱起立筋
17		頸部
18		頭部
19		胸部
20		腹部 1
21		腹部 2
22		顔面部
23		関節 1
24		関節 2
25		乳房
26		後期の復習
27		予備日
28		試験日
29		試験日
30		予備日

その他の事項

その日習った手技を必ず復習し、わからない箇所をまとめて次の授業にて質問するように。

授業概要					
学 科	本 科	学 年	1 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	6 0	実施時間数	6 0
担当教員	松尾 卓				
授業形態	実 習	教 室	第 3 実技室		
授業目的	指圧とは、疾病の治療および予防を目的として、全身の体表に定められた部位に徒手をもって、原則として漸増・漸減する垂直圧による一点圧を主体とした押圧操作を遠心性に加え、生体に備わる自然治癒力の促進、疲労の除去ならびに健康の保持増進を図る手技療法である。治療に適した有効な施術方法である一方、適切な知識および技術を習得していなければ、相手に危害を及ぼす危険性も伴う。				
	本校では 1 年次から 3 年次まで継続して指圧の授業を設定しているが、特に 1 年次においては、基本手技を反復して実践し、伏臥位施術の一連の流れを安全に行えるようになることを目的とする。				
教 科 書	京都仏眼鍼灸理療専門学校 指圧整体法テキスト				

具体的な到達目標	
目標 1	伏臥位施術の一連の流れを安全に実施することができる。
目標 2	押圧法の三原則（垂直圧・持続・集中）を意識した操作を行うことができる。
目標 3	漸増・漸減を意識した押圧を行うことができる。
目標 4	各種運動操作を安全に行うことができる。

評価と試験					
前 期			後 期		
試験成績	7 0 %		7 0 %		
平常点	算出方法		算出方法		
出席点	3 0 %	算出方法 1 回毎に欠席-2 点、遅刻-1 点	3 0 %	算出方法 1 回毎に欠席-2 点、遅刻-1 点	
その他	算出方法		算出方法		
試験日	後日伝達		後日伝達		

＊追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験			
実務経験	有 ☒	無 ☐	
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸あま指整骨院にて 2 年間の臨床経験あり。本校附属治療所で 1 3 年以上の実務経験あり。		
実務経験をいかした教育内容	指圧施術における基本的手技を中心に実技を行う。 あわせて、解剖学的構造の理解を促しながら指導を行う。		

授業の内容		
回数	内容	備考
1	導 入① シラバス説明及び指圧施術の概要、各種用語や基礎理論の学習	
2	導 入② 指圧の基本手技の概要・目的・実施方法についての学習	
3	伏臥位施術① 施術時の術者・従者の姿勢、脊柱検査、安全確認	
4	伏臥位施術② (1) 背部全体の掌圧❶	
5	伏臥位施術③ (1) 背部全体の掌圧❷	
6	伏臥位施術④ (2) 一側線の母指圧	
7	伏臥位施術⑤ (3) 二側線の母指圧	
8	伏臥位施術⑥ (4) 三側線の母指圧	
9	伏臥位施術⑦ (5) 肩甲骨周囲部の両母指間歇圧迫 (6) 腰側線の両母指圧 (7) 仙骨両側の両母指圧	
10	伏臥位施術⑧ (8) 下肢の掌圧及び母指圧❶	
11	伏臥位施術⑨ (8) 下肢の掌圧及び母指圧❷	
12	伏臥位施術⑩ (8) 下肢の掌圧及び母指圧❸	
13	前期復習① 前期学習内容の復習	
14	前期実技試験① 対象者以外は前期学習内容の復習	
15	前期実技試験② 対象者以外は前期学習内容の復習	
16	前期復習② 実技試験の総評及び振り返り、前期学習内容の復習	
17	伏臥位施術⑪ (8) 下肢操作の復習	
18	伏臥位施術⑫ (9) 肩上部、肩背部母指圧	
19	伏臥位施術⑬ (10) 上腕及び前腕内側の掌圧及び肩甲内側縁部母指圧	
20	伏臥位施術⑭ (11) 一側線～三側線両母指圧	
21	伏臥位施術⑮ (12) 腰側線の両母指圧 (13) 仙骨孔の4点母指圧	
22	伏臥位施術⑯ (14) 大腿外側及び下腿外側の掌圧 (15) 下腿外側の母指圧	
23	伏臥位施術⑰ (16) 足関節の回転運動 (17) 膝の回転運動 (18) 前脛骨筋部の手根圧	
24	伏臥位施術⑱ (19) 大腿前面部伸展 (20) 腰部伸展	
25	伏臥位施術⑲ (14)～(20) 下肢操作の復習	
26	後期復習① これまでの学習内容の復習	
27	後期復習② これまでの学習内容の復習	
28	後期実技試験① 対象者以外はこれまでの学習内容の復習	
29	後期実技試験② 対象者以外はこれまでの学習内容の復習	
30	後期復習③ 実技試験の総評及び振り返り、これまでの学習内容の復習	
その他の事項		

通年で指圧の基礎実技を学んでいきますが、基本的に、授業内の時間だけでは施術できるようにはなりません。

授業外の放課後練習や自宅練習を行い、技術の研鑽に努めて下さい。

